

超高齢化どう対応

Gヘルスケア
ヘルスケア

取り組み紹介

弘前で講演

弘前大学と県、民間企業が連携して脳卒中や認知症の早期予兆発見、予防法の開発に取り組みプロジェクトの研究拠点「COI拠点研究推進機構」事業の一環で、同大は20日、同大学院医学研究科で第5回弘大COI特別講演会を開いた。

弘大は今年、医療機器メーカー大手「GEヘルスケア・ジャパン」（本社・東京都）COI事業に関する共同研究契約を締結。講演会は同社執行役員で技術本部長の星野和哉さんが「GEのイノベ

ーションと日本の役割」と題し講演した。星野さんはビジネス戦略の一つとして、医療が抱える問題を解決する「ヘルシーマシネーション」を紹介。日本では超高齢化社会に対応するため、早期診断・早期治療、シルバ

ー機器開発、ホームヘルスを柱にしていることを解説した。日本のニーズを考へ、省スペースや低消費電力化に成功した同社開発のMRIが、世界各国で人気となった事例も示した。

弘大との共同研究契約について星野さんは「ビッグデータを蓄積して日本の健康寿命を



GEヘルスケア・ジャパンの取り組みなどについて紹介する星野さん

延ばす弘前の取り組みは我々の方針と一致している。参加させていだいたのは非常に「義深い」と語った。
(成田真矢)